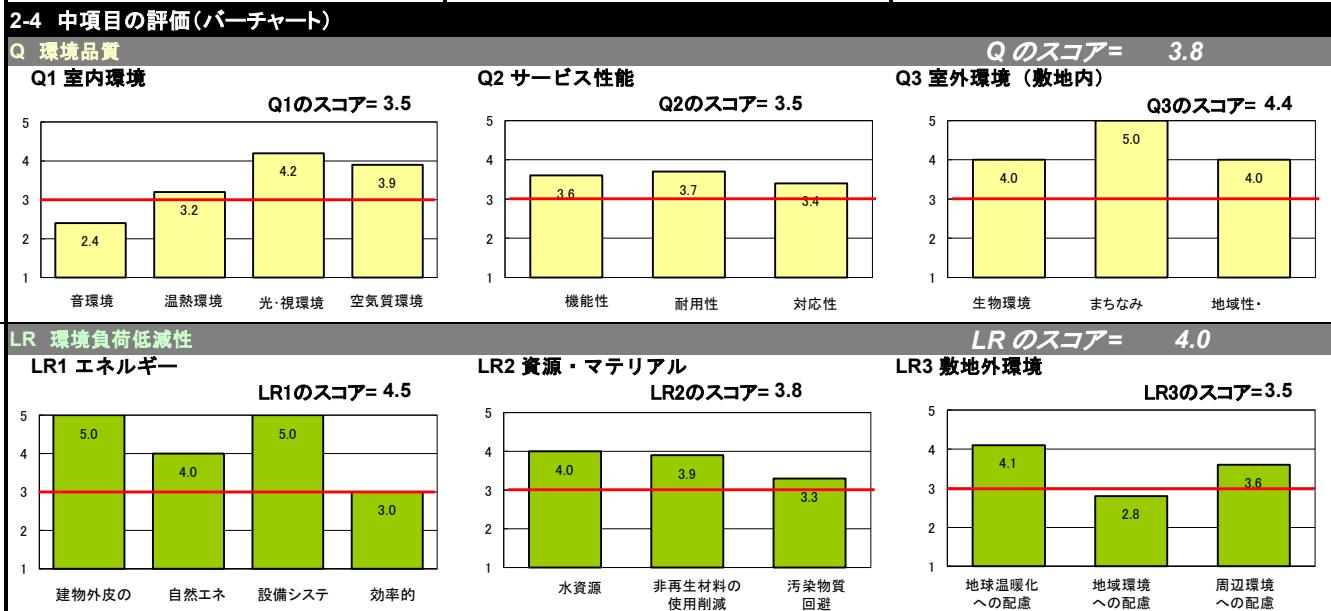


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24020

建築物名称	昭和医科大学鷺沼キャンパス整備工事
建築主	学校法人 昭和医科大学 理事長 小口 勝司
建築物の所在地	川崎市宮前区鷺沼4丁目4-1
設計者氏名、建築士事務所名	本田 真吾 株式会社 日本設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	34,249.09m ²
用途	学校(大学)
構造	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
工事完了予定年月	令和9年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、トップライト、クールヒートレンチ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	トップライト、クールヒートレンチ

1-1 建物概要		1-2 外観		24020
建物名称	昭和医科大学鷺沼キャンパス整備工事	階数	地上3F	
建設地	神奈川県川崎市宮前区鷺沼4丁目4-1	構造	S造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	2,000 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)	
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2024年6月1日	
敷地面積	36,861 m ²	作成者	株式会社日本設計	
建築面積	16,433 m ²	確認日	2024年6月1日	
延床面積	34,249 m ²	確認者	株式会社日本設計	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア合計/ 重点項目最高点のスコア合計 (5点満点)	重点項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復 (G)		Gの平均点	3.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	周辺緑地環境の把握、自生種の保全、敷地・建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくり等 建物景観の調和、良好な植栽。交差点からの眺望の配慮。	3.7/4.3	4.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境の把握、隣棟間隔の工夫。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進 (W)		Wの平均点	3.8
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	Low-Eガラスの採用。高断熱仕様 トップライトの採用 ロールスクリーン及び庇の採用	0.7/0.9	4.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑地を多く設け川崎市緑化基準指針の基準値を上回っている。	1.7/2.3	3.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.59 トップライト、クールヒートレンチの採用 BEIm 0.60	4.5/5.0	4.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	自動水栓・節水型便器の採用。井戸水・雨水の利用 高炉スラグ粗骨材やグリーン購入法対象品を採用。 HFO発砲の吹付断熱の採用	3.6/4.7	3.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境の把握、隣棟間隔の工夫。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成 (R)		Rの平均点	3.7
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	ビニル床シート、ビニルクロス、ロックウール吸音板、塩ビライニング鋼管の採用。	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	自動水栓・節水型便器の採用。井戸水・雨水の利用 高炉スラグ粗骨材やグリーン購入法対象品を採用。	3.1/4.0	3.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和 (H)		Hの平均点	3.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑地を多く設け川崎市緑化基準指針の基準値を上回っている。	1.7/2.3	3.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	Low-Eガラスの採用。高断熱仕様 トップライト、クールヒートレンチ 高効率設備機器の採用	4.5/5.0	4.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境の把握、隣棟間隔の工夫	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

3.8

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計 (5点満点)	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 軸体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築軸体等の継続利用 2.3 軸体材料におけるリサイクル材の使用	高炉スラグ粗骨材の使用。	1.0/1.2	4.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	高断熱仕様 トップライト、クールヒートレンチ 高効率設備機器の採用	4.5/5.0	4.5

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階										
配慮項目		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質		G	W	R	H							
Q1 室内環境												
1 音環境								2.4	0.15			3.8
1.1 室内騒音レベル								3.0	0.40			3.5
1.2 遮音								1.6	0.40			
1 開口部遮音性能								3.0	0.30			
2 界壁遮音性能								1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								1.0	0.20			
1.3 吸音								3.0	0.20			
2 溫熱環境								3.2	0.35			3.2
2.1 室温制御								3.4	0.50			
1 室温								3.0	0.60			
2 外皮性能								4.0	0.40			
3 ゾーン別制御性								-	-			
2.2 湿度制御								3.0	0.20			
2.3 空調方式								3.0	0.30			
3 光・視環境								4.2	0.25			4.2
3.1 昼光利用								4.0	0.30			
1 昼光率								4.0	0.60			
2 方位別開口								-	-			
3 昼光利用設備								4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策								4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御								4.0	1.00	-	-	
3.3 照度								4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御								5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境								3.9	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策								4.0	0.50			
1 化学汚染物質								4.0	1.00			
4.2 換気								3.6	0.30			
1 換気量								4.0	0.33			
2 自然換気性能								4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮								3.0	0.33			
4.3 運用管理								4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視								3.0	0.50			
2 喫煙の制御								5.0	0.50			
Q2 サービス性能								-	0.30	-	-	3.5
1 機能性								3.6	0.40			3.6
1.1 機能性・使いやすさ								3.0	0.40			
1 広さ・収納性								-	-			
2 高度情報通信設備対応								3.0	1.00			
3 パリアフリー計画								4.0	0.30			
1.2 心理性・快適性								3.0	0.50			
1 広さ感・景観								-	-			
2 リフレッシュスペース								5.0	0.50			
3 内装計画								4.0	0.30			
1.3 維持管理								4.0	0.50			
1 維持管理に配慮した設計								-	4.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保								4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性								3.7	0.30			3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振								3.8	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能								3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数								3.5	0.30			
1 車体材料の耐用年数								-	3.0	0.20		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								-	3.0	0.20		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								4.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔								-	3.0	0.20		
2.4 信頼性								3.8	0.20			
1 空調・換気設備								-	3.0	0.20		
2 給排水・衛生設備								5.0	0.20			
3 電気設備								-	4.0	0.20		
4 機械・配管支持方法								4.0	0.20			
5 通信・情報設備								-	3.0	0.20		

3	対応性・更新性						3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり					階高4.38m 壁長さ比率0.185	4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり						5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ						4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり					—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)							—	0.30	-	-	4.4
1	生物環境の保全と創出	G	W		H	周辺緑地環境の把握、自生種の保全、敷地・建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくり等	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	G				建物景観の調和、良好な植栽。交差点からの眺望の配慮。	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮						4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上					地域性のある植栽の採用。地域の憩いの場の提供、内部空間との連続性。視線を遮らない植栽や夜間照明計画。	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	-	-	4.0
LR1 エネルギー								-	0.40	-	4.5
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H	BPI=0.59	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W		H	トップライト、クールヒートレンチ	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化		W		H	BEIm 0.60	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価						3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					—	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価						-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					—	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル							—	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護		W	R			4.0	0.20	-	-	4.0
	1.1 節水					自動水栓、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用					井戸水・雨水の利用	4.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無					—	4.0	0.70	-	-	
	2 雜排水等利用システム導入の有無					—	4.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減						3.9	0.60	-	-	3.9
	2.1 材料使用量の削減		W	R		—	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R		—	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		高炉スラグ粗骨材	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		照明器具、天井材	4.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R		—	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R		LGS下地・FAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避						3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用					—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避					—	3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤					HFO発泡の吹付断熱の採用	4.0	0.50	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					—	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒						-	-	-	-	
LR3 敷地外環境							—	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮		W			—	4.1	0.33	-	-	4.1
2	地域環境への配慮						2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止					—	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H	風環境の把握、隣棟間隔の工夫	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			R		—	2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減			R		—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制			R		—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制			R		駐輪場・駐車場の計画	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制			R		—	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮						3.6	0.33	-	-	3.6
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止					—	3.0	0.40	-	-	
	1 騒音					—	3.0	1.00	-	-	
	2 振動					—	-	-	-	-	
	3 悪臭					—	-	-	-	-	
	3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					風シミュレーションを行い風環境が向上している	4.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制					—	4.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制					第一種低層住居専用地域の日影条件を満たしている	4.0	0.30	-	-	
	3 日照阻害の抑制					光害対策ガイドラインのチェックリスト項過半満足。広告物照明なし	4.4	0.20	-	-	
	3.3 光害の抑制					—	5.0	0.70	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					—	3.0	0.30	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						-	-	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○			○	-	○	○	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	-	○	○	○	○	○		○	○		-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	○	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	5.0	5.0	○	○	○	-	○	-	○						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	-	-	○	-	○							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	2.0	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	1.0	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	1.0	2.0	-	2.0	-	-	-	-			
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			○	-	○	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 転体材料におけるリサイクル材の使用			1.0	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		1.0	-	-	3.0	2.0	1.0	-	3.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	-	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC0.4 窓の日射熱取得率(η) 0.3

U値 (W/m²K) 窓システム 3.0 屋根 - 外壁 0.6

床 - 住戸部分ステムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

3.1.1 曜光率

曜光率 2.0%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面 6.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0m² / 人 病床 .0m² / 床 シングル .0m² ツイン .0m²

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 3 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 転体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 4.38 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 19.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²**Q3 室外環境(敷地内)**

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指標 34% 建物緑化指標 2%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 55% 水平投影面積率 14% 地表面対策面積率 26% 補装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_{Im} 0.59 施工熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年m² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

BPI/BPI_{Im} 非住宅 0.60 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

2.4 転体材料以外におけるリサイクル材の使用

雨水利用率 0.0%

2.5 持続可能な森林から産出された木材

特定調達品目 照明器具 エコマーク商品 ロックウール化粧吸音板 自治体指定の特定品目等 -

3.2.1 消火剤

使用比率 0.0%

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 1

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 1180

見付面積比 97% |棟間隔指標Rw 20.79
地表面対策面積率 43.0% 屋根表面対策面積率 2.0% 外壁表面対策面積率 0.0%
見付面積Sb 2.515m² 越風向と直交する最大敷地幅Ws 261.25 m 基準高さHb 9.83 m
緑地 ##### 水面 317m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²